

ごん吉くんしポート、南吉よもやま話

第16回 歌になった「貝殻」

今年も間もなく新美南吉の命日（3月22日）がやってきます。半田市では平成26年から南吉の命日を「貝殻忌」と呼んで、彼を偲び、顕彰の想いを繋ぐ日にしていきます。

「貝殻忌」の名前は、南吉が21歳頃に作った詩「貝殻」に由来しています。「かなしきときは／貝殻鳴らそ」で始まるこの詩は、昭和36年、市内最初の南吉文学碑として雁宿公園に建てられた碑に刻まれています。また、昭和44年には作曲家の清水脩さんに依頼して合唱組曲にもなりました。ところが、清水さんの曲は本格的な混声四部合唱用に作られたため、一般の人が気軽に歌えるものではありませんでした。

昭和51年、「誰でも口ずさめる南吉の曲がほしい」と、半田青年会議所が中心になって童謡「サツちゃん」「いぬのおまわりさん」の作曲で知られる大中原さんに、改めて「貝殻」を作曲してもらうことになりました。



作曲や曲を広めるためにかかる費用は、企業協賛で賄うのではなく、市民一人一人に寄附を募ろうということになりました。一口百円を払った人には「みんなて歌おうかいがらを」と書かれたステッカー

今年の貝殻忌式典は、御年91歳の大中原さんの指揮で「貝殻」などを歌います。誰でも参加できるよ。

■日時 3月21日（振休）10時30分

※命日の前日です。

■場所 アイプラザ半田

カーが渡され、後日、楽譜とソノシート（レコード）に引き換えられました。半田小学校講堂で行われた発表会では、初代うたのおねえさんと母親が武豊町出身の歌手、眞理ヨシコさんと半田少年少女合唱団、半田混声合唱団が共演。三万部刷られた楽譜は市内全戸に配布され、活動は新聞やテレビでも大きく紹介されました。こうして市民運動から生まれ広がった「貝殻」は、現在も市内の合唱団を中心に歌い継がれています。

半田市合唱協会の近藤恭弘会長によると、大中原さんに作曲を依頼した理由の一つは、父で同じく作曲家の大中原二さんが渥美半島ゆかりの「椰子の実」（島崎藤村作詩）を作曲しているの、知多半島の「貝殻」はご子息にお願いしよう、ということだったとか。半田市では、今回の貝殻忌で長らく絶版になっていた「貝殻」の楽譜を再版し、愛知県中の合唱団や希望者に配布します。「椰子の実」が愛知を舞台にした歌として全国で愛唱されているように、「貝殻」も県民に愛される歌になるといいですね。



若い世代の意見を市政に届けよう!! 「はんだU22研究所」メンバー募集!!

半田をより住み良いまちにするため、若い世代の方の意見や考え、取組みを検討する場「はんだU22研究所」のメンバーを募集します。

4月から月に1回程度会議を開き、9月に市長の前で成果を発表していただきます。

- 期 間 4～9月（月1回の会議）
- 場 所 市民交流センター（クラシティ半田3階）
- 対 象 市内在住・在学の高校生、大学生など
- ※複数人（グループなど）での申し込みもできます。
- 申込み・問合わせ 企画課 ☎84-0603

Eメール joho@city.handa.lg.jp

